

「勝負の秋」私学助成署名 全国で始動

目標設定23県 「方針と計画」提出18県

夏のブロックキャラバン、先日の全国父母懇・私学助成をすすめる会交流会(愛知大会)を経て、全国で私学助成署名のとりくみが始まっています。岩手、茨城では私学フェス・つどいを多くの参加で成功させました。3年ぶりの街頭署名、新たな試みの工夫、他団体との共闘など、さまざまな取り組みによって、「署名を少しでも増やそう!」と各県で意思統一がおこなわれています。「勝負の秋」(愛知高校生)、この決意を胸に、大きな運動をつくって「私学の無償化」を前進させましょう。

目標や計画をまだ報告していない県は必ず提出をお願いします。

<各県の方針・重点など>

- ・ 学習会の開催。(北海道)
- ・ 下降傾向となっている集約数に歯止めをかけ、2018年度並みの集約数回復をめざす。各校での生徒・保護者・教職員の集約目標の明確化と点検強化。誰から何筆集めるのか決めずに署名運動を行っている単組、定期的に集約点検が行われていない単組をなくす。(岩手)
- ・ 署名数の増加。10万筆の目標達成。街頭署名復活とともに、署名運動そのものを活気あるものにしていく。(山形)
- ・ 最大目標5万筆、最少目標1万筆の回復。他団体との連携強化。初の試みとして、学内の連絡システムや保護者への一斉メールを活用して集約をすすめる単組もある。(宮城)
- ・ 県内各幼稚園へ署名を依頼する。(栃木)
- ・ 私学助成見直しの年にあたり、署名数の増加でさらなる拡充をめざす。(千葉)
- ・ 経常費助成増額で専任教員増を。私立小中に通う家庭への補助を。(東京)
- ・ 署名を主体的にとりくむ教職員の拡大。各単組がこれまでのとりくみに加え、新たにとりくむ課題を最低1つは増やす。(新潟)
- ・ 就学支援金の県の上のせ分の増額を勝ち取る。(富山)
- ・ 父母が「署名集めをした」と実感できる運動を再構築する。そのためには、教員からの「熱」を伝えることがカギを握る。教職員と父母の学習会を重視し、その際、「ナマの声」を集め、エネルギーの供給をする。(愛知)
- ・ 最終目標は「私学の無償化」であることを念頭に置き、今年も活動する。(岐阜)
- ・ とにかく署名数を追求する。配布が難しい単組について、管理職、保護者の役員などとの対話の支援に取り組む。姫路駅前3年ぶりの街頭署名、高校生に参加してもらう。(兵庫)
- ・ 岡山の県単助成のレベルを上げる!!(岡山)
- ・ 署名用紙をリニューアルして、目標3万筆を達成する。公私共同でつどいを計画。(広島)
- ・ 県単独の授業料補助を復活させる。(香川)
- ・ 昨年度比 署名数UP(愛媛)
- ・ 昨年度を上回る署名数を獲得する。加盟校内での署名託送の拡大。関係諸団体への署名用紙の早期配布。東京の「23区プロジェクト」に触発を受けて、初の試みとして玉名、八代地区での「郡部街頭署名活動」を計画。(熊本)
- ・ コロナ等で2年間ブランクがあったので、国会署名に絞って署名活動を復活させる。(大分)

9月末署名集約 8県で約3万筆

	2021年度	2022目標	9月末集約
北海道	21,751	50,000	0
青森	25,528	75,000	
秋田	43		
岩手	62,506	84,300	0
山形	80,001	100,000	21,000
宮城	9,383	50,000	100
福島	2,043		
茨城	11,768	50,000	0
栃木	4,550	5,000	719
埼玉	32,316		
千葉	34,498	120,000	94
東京	178,666	200,000	7,000
神奈川	71,643		
山梨	26		
長野	10,606		
新潟	57,547	120,000	0
富山	3,953	5,000	0
石川	6,071		
福井	1,263		
静岡			
愛知	1,887,731	2,000,000	0
岐阜	59,360	110,000	0
三重			
滋賀	79,386		
京都	79,388		
大阪	90,728		
奈良	28,333		
兵庫	55,757	80,000	0
鳥根	45		
岡山	18,497	30,000	120
広島	10,532	30,000	0
山口	10,520		
香川	4,610	20,000	80
愛媛	1,952	3,000	0
高知	17,482		
福岡	83,289	100,000	
佐賀	31,461	60,000	
長崎	112	1,000	
熊本	11,304	50,000	14
大分	140	1,000	0
宮崎	36		
鹿児島	16		
	3,084,841	3,344,300	29,127

秋季闘争と私学助成運動を連結させて

教員不足と長時間労働による多忙化が公私を問わず全国で深刻な課題になっています。全国私教連では秋闘で「専任増」統一要求を方針に据えて、全国的なたたかいを提起しています。

私学では法人の財政基盤がそれぞれ異なっているので、中には専任増の意義を理解したとしてもただちに採用に踏み出すわけにはいかない、という経営者もいるでしょう。その場合は、来年度の採用の確約や、数年先を見通した採用計画などを協議するのも大切ですが、「そもそも私学助成(経常費助成)の拡充が専任増の前提なのであり、即時の採用が無理ならばせめて私学助成署名を増やして国や県に要請するために学内配布を認めてほしい」と訴える必要があります。いたずらに対立を煽るのではなく、「教育づくり・学校づくり」の観点からも、教職員を増やして独自の優れた教育を発展させるために、ともに力を合わせて私学助成署名にとりくむよう、職場にも理事会にも働きかけましょう。

◇新聞「全国私教連」第138号を各職場に届け活用しよう

◇9月末学費滞納調査の締切り迫る! 10月28日(金)まで

20日時点で約100校分に到達。目標の400校分をやりとげよう!

◇2023私学春闘アンケート 配布は進んでいますか?

職場の要求をつかんで次の春闘を攻勢的に! 1人でも多くの声を集めよう!

